

はらじゆくちょう

## 原宿町遺跡

(横浜市No.189遺跡)

調査期間

平成14年4月より断続的に実施している

所在地

横浜市戸塚区原宿二丁目地先～五丁目地先

時代

近世



更新日:20070724

### 概要

本調査は、国土交通省横浜国道事務所が行っている一般国道1号線原宿交差点改良事業に伴い、事前に行われている発掘調査です。

原宿町遺跡は、JR戸塚駅の南西3.5kmに位置し、境川と柏尾川の間、南西に延びる丘陵上に立地する近世を主体とする遺跡です。江戸時代の原宿は、原宿村と称する総戸数50戸ほどの農村でしたが、東海道が村の中央を通り、戸塚宿と藤沢宿の間に位置していたため、馬を継ぎ立てたり、人足や駕籠などが休息するための「立場」が設けられていました。また、旅人に食事や茶・菓子などを提供するような茶屋や宿屋があり、「間の宿」としての役割を果たしていました。発掘調査は、平成14年5月から断続的に実施しており、平成19年3月1日～3月31日に第5次調査を行いました。調査面積は150㎡弱と狭く、広い範囲が攪乱されていましたが、掘立柱建物址、井戸址、宝永スコアを処分した穴などの遺構や陶磁器、石製品、金属製品などの遺物が発見されま

した(写真上・中)。陶磁器の中には、焼<sup>やきつぎ</sup>継と呼ばれる補修が施された碗や皿などが数多く含まれていました(写真下)。焼継とは、割れた陶磁器を「白玉粉」と呼ばれる鉛ガラスを割れ口に塗って低温で焼いて接着させる補修方法で、



▲調査区全景



▲遺物出土状況

今から150～200年くらい前に流行しました。焼継は焼継師と呼ばれる専門の職人によって行われました。焼継された陶磁器には底部などの目立たない箇所に文字が書かれています。文字は焼継師が発注者に返却する際の識別のために付したと思われ、地名や人名などが書かれていることが多いようです。原宿町遺跡では「原」・「原ノ」や人名などが書かれた例が多数確認されています。



▲補修された碗と皿